

「ひとりぼっち」にしない杉並^{まち}づくり 講演会開催報告

開催日：12月13日（月）14：00～16：30

会場：座・高円寺2 参加者：141名

主催：福祉のまちづくり・杉並

（コープとうきょう、パルシステム東京、東都生協、生活クラブ生協、西部保健生協）

後援：杉並区

東京都生協連のすすめる福祉のまちづくりは、杉並区、北区、練馬区をモデル地域に、生協の枠を超えた連携と行政、地域住民とのつながりをみんなで進める福祉のまちづくりの取り組みをすすめています。

モデル地域のひとつである「福祉のまちづくり・杉並」では4月より地域生協、医療生協の組合員、職員がメンバーとなり、それぞれの日常の取り組みの交流を行ないながら、杉並区における福祉のまちづくりについて話し合いを重ねてきました。話し合いを進める中で、高齢者が10万人を超えた杉並の現状や子どもと一定の距離を置いて暮らしたいという高齢者が増えている一方で、高齢者の孤独死などの問題も出され、「ひとり」はいいけれど「ひとりぼっち」にはならない、個人を尊重しながら誰もが暮らしやすい杉並（まち）づくりをみんなで考えあうための協同の第一歩として、福祉のまちづくり・杉並の第1回企画、講演会「ひとりぼっちにしない杉並（まち）づくり」を開催しました。

第1部 講演「孤独死のないまちをめざして」

河合克義さん(明治学院大学社会学部教授・東京都生協連理事)

河合先生からは高齢者を取り巻く現状について、港区・横浜市鶴見区など様々な地域で実施してきた一人暮らし高齢者の生活実態調査の結果や夏に起きた所在不明高齢者問題などから「孤独死のないまちをめざして」と題し話をしていただき、地域で私たちに出来ることを学びました。



◆高齢者生活実態調査から…

【高齢者の孤立、3つのケース】

- ①独居高齢者世帯…ひとりぼっちで家でも地域からも孤立しているケース
- ②高齢者夫婦のみ世帯…二人で暮らしていても地域から世帯ごと孤立しているケース
- ③家族と同居世帯…一緒に暮らしている家族がいても家族の中で孤立しているケース

【地域とのつながり】

- ①介護保険、生活保護、ボランティアとのつながりを持っている人は高齢者の2～3割
- ②孤立している高齢者は自ら社会的サービスを利用する可能性は低く、第三者の目が届かない。
- ③生活上に問題があっても要求しない。

◆ひとり暮らし高齢者の社会的孤立に関する調査から

【孤立の量と質】

一人暮らし高齢者の出現率は大都市港区で1995年123位、2000年37位、2005年13位で島嶼部を除いて都内第1位の出現率になっている。

【経済的問題】

苦しい経済状況で削減するのは交際費であり、友人や近所との付き合いが減少する要因となり孤立につながる。

【孤立の状況】

緊急時の支援者なし…	港区 15.9%	鶴見区 27.4%
正月三が日一人で過ごした…	港区 35.1%	鶴見区 37.4%
近所づきあい「あまりなし」…	港区 42.6%	鶴見区 40%



河合先生からは調査データをもとに見えた現状と課題について話をしていただき、社会的サービスを受けない人、周りをつながりを持たない高齢者が増加、声を上げない人達が孤立していく現状を知ることが出来ました。

高齢者の孤立、孤立死を防ぐためには地域ぐるみで孤立している高齢者を発見することの出来る仕組みづくりが重要であり、介護保険とは別の社会福祉サービスの充実が重要であり、杉並という地域で住み続けられるまちづくりを考えるとときに、医療生協を中心に購買生協の会員が力を合わせて生協の特性を生かし、行政、地域住民と連携することで「ひとりぼっち」をなくす大きな力となるという事が話されました。

第2部 報告「杉並区の高齢者福祉の取り組みと課題」

畦元智恵子さん(杉並区保健福祉部高齢者在宅支援課長)

畦元さんからは杉並区の高齢者在宅支援課の組織と高齢者対策の取り組みの紹介と杉並区が3年に一度行なっている高齢者の実態調査報告、100歳以上所在不明高齢者問題への対応、また、高齢者から寄せられる相談内容など具体的な杉並区の状況と対策について報告がありました。



【保健福祉部高齢者在宅支援課は…】

- ①杉並区の高齢者を担当している部署は「介護保険課」「高齢者施策課」「高齢者在宅支援課」三課あります
- ②高齢者在宅支援課は、2010年に組織改正で出来た部署で管理係、地域連携推進係、高齢者福祉係に分かれる。
 - [管理係] 介護保険以外の高齢者への一般の福祉サービスを行っている。
 - [地域連携推進係] 地域包括支援センター24、物忘れ関係、認知症サポーター養成講座、地域の助け合い、見守りなど地域のネットワーク作りを推進している。
 - [高齢者福祉係] 元老人福祉法、高齢者虐待防止法に基づき直接支援をしている。

【調査結果から、杉並の現状】

65歳以上は10万人、75歳以上は5万2千人となり、後期高齢者（75歳以上）が前期高齢者（65歳～74歳）を上回っている

【100歳以上高齢者、所在不明高齢者問題とその対応】

100歳以上高齢者は4月現在で263人、その中に所在不明の113歳の女性が含まれていたことから集中的に訪問を行なった

【相談内容の変化】

最近ではクレジットカードを持っている高齢者が増加しており、多重債務問題についての相談、対応といった新たな問題も出てきており、福祉の役割ではないかもしれないが法律を勉強しながら財務整理の手伝いをすることもある。

【高齢化が進む中で】

- ①長寿になったことで、親、兄弟、子どもがいても先立たれるケースもあり身寄りのない、緊急連絡先を持たない高齢者が増加している。緊急連絡先については持っていないと緊急時、病院など受け入れてくれないことが多くあるので緊急連絡先はきちんと確保しておくことが必要である。
- ②金銭管理をきちんとしてくれる信頼できる人の確保が必要である。
- ③一人暮らし高齢者の孤立、夫婦世帯でも二人で孤立している場合、家族と同居していても家族の中で孤立し「淋しさ」を抱えていることがある。

畦元さんの報告から、介護保険導入後行政の福祉サービスのあり方が大きく変化したことや杉並区の高齢者の状況と現在の行なっている取り組みを知ることが出来ました。その中で淋しさ、孤独感を抱えている高齢者が多くいる現状を知り、行政と共にあって私たちに出来ることを考えるきっかけになりました。

参加者の感想

《第1部》

- ◇社会的に大きな関心ごとになっている事が実感できました。地域の人の関係づくりに生協が役割の発揮を求められていると再認識できました。
- ◇ひとりぼっちのお年寄りをなくすためには行政の役割と地域住民としてできる声かけなど両方がないと厳しいと思う。
- ◇周囲を見渡して、他人事ではない事なので、考えさせられた。地域でつながりあうこと、居場所を作る事とともに行政の役割の大切さも再認識出来た。
- ◇大変良かった。具体的でまた、理論的にどう考察をしてよいかというヒントがあった。時間が足りなかったのが残念。
- ◇どこの地域でも考えていく、いかなければならないことを地域で何が出来るのか、何をしなければ、また組合員にどのような情報を発信していく必要があるのかのヒントを頂きたく、また現実を知りたいと出席しました。わかり易くお話頂きありがとうございました。

《第2部》

- ◇杉並での様々なしかけがよくわかりました。それをいかに成果につなげるか、生協とのつながりの模索が必要です。
- ◇普段高齢者の福祉に携わってご苦労されていることと思いますが、明るく実情を語ってくださり、具体的なお話はとても良かった。実情に触れている方のお話としてとても実感に迫ってきました。行政も一生懸命、取り組んでいることが伝わりました。
- ◇購買生協として役立てる事が多くあると実感しました。
- ◇手を上げない人へアプローチ方法につき、今後取り組むとの事ですが、ぜひ教えて頂ければと思います。

【講演会を終えて】

今回の講演会で高齢者の生活実態や行政が取り組むサービスについて、生協組合員以外の杉並区民の出席者を含め141名の参加者と共に学ぶことが出来ました。河合先生の講演、畦元さんの報告から見えた課題について生協として出来ることの発見にもつながる講演会になりました。